社楽 SHARAKU

神奈川県立川崎図書館が所蔵する全国有数の〈社史コレクション〉をさらに活用していただくため、社史の使い方や、社史の楽しさ、社史情報などをお届けしていきます。

Vol.115

2026/10

身近な筆記具の会社

身近な製品に関する会社など、見覚えのある社名の社史を読んでみると、何となく親しみを感じて読みやすいかもしれません。今回は、私たちが普段使っている文具、中でも筆記具に関する会社の社史を調べてみました。

○

『時代を書きすすむ三菱鉛筆100年』（1986年刊）

三菱鉛筆は、社名の通り鉛筆製造から始まっています。三菱ブランドの鉛筆を戦前から輸出していました。戦後も品質のよい鉛筆の開発に取り組み、高級鉛筆「ユニ」を発売しています。経営の多角化として、総合筆記具メーカー・文具メーカーの道へ進みますが、鉛筆の製造技術は窯業技術・木工技術なのに対し、鉛筆以外の文具の製造技術は機械技術という違いがあり、技術的には至難の技でした。シャープペンシルは昭和30年代半ばから極細替芯の開発に取り組み、0.5ミリ替芯を昭和43年に発売しています。ボールペンも昭和30年代から開発に取り組みました。油性ボールペンだけではなく、昭和54年には書き味のよい金属チップを使用した水性ボールペン「ユニボール」を発売し、国内外から高く評価されました。

○

『トンボ鉛筆100年史』（2013年刊）

トンボ鉛筆は、シンボルマークを刻印した独自路線の「銘柄鉛筆」を製造販売し人気となりました。昭和に入ると、高級製図用芯の鉛筆を国内外で販売します。戦後は総合筆記具メーカーへ事業の多角化を図り、ボールペン・マーキングペンの開発に本格的に着手し、昭和33年には油性ボールペンを発売しています。事業の多角化は、鉛筆の多角化をも促し、昭和32年にシャープペンシル第1号を発売しました。昭和38年には最高級鉛筆「MONO」を発売し、その鉛筆から始まった「MONO」ブランドは、消しゴムや修正テープなど数々の商品に広がっています。

○

『パイロット100年の航跡』（2019年刊）

大正5年に純国産14金ペンを開発し、万年筆を製造・販売していたパイロットは、蒔絵万年筆やブルーブラックインキで海外にも市場を広げました。戦後も、二重構造のペン芯を採用した「パイロットスーパー」やキャップのいらない「パイロットキャップレス」といった万年筆を開発していきます。しかし、筆記具消費の多様化・市場のニーズの変化に伴って事業の見直しを行い、筆記具事業では万年筆の他サインペンやシャープペンシルの開発を進めまし

（裏面へつづく）

（表面から続く）

た。昭和42年にパイロットが発売した芯径0.5ミリのノック式シャープペンシルは、ノック機構や0.7ミリに代わる0.5ミリシャープの普及に大きく貢献しました。その他にも、ユニバーサルデザインの「ドクターグリップ」、30年以上も開発に取り組んだ「消えるインキ」を実用化した「フリクションボール」などの大ヒット商品もあります。

○

『100年史』（2011年刊）

セーラー万年筆の100年史です。「50年抄史の、〝読むよりも見て楽しめる〟ことを踏襲した100周年社史を発行」とあるように、昭和36年から1年ごとに製品や広告などが掲載されています。児童絵本（スマーフ物語）を販売していたことや、平成20年に開催されたG8北海道洞爺湖サミットで各国首脳に贈呈された「有田焼万年筆」の写真も掲載されています。また、関連の読み物として**『万年筆国産化一〇〇年』**（2011年刊）（桐山勝／著）があります。セーラー万年筆100周年を記念して出版され、「セーラー万年筆とその仲間たち」という副題で他社メーカーを含めた国産化の歴史や時代背景が書かれています。ペンクリニックやペンドクターの話も興味深いです。

○

『株式会社呉竹創業百周年史』（2003年刊）

創業明治35年の書道・文具メーカーで、百年の長い歴史のなかで初めての社史編纂となりました。奈良の伝統産業でもある固形墨から始まり、昭和33年には、教育現場用に液体墨「墨滴」を発売しました。「くれ竹筆ぺん」の開発では、他社に先を越されるも、筆圧の強弱で太さが変えられ、トメやハネのような書に必要な基本的な筆運びができるペンを目指して開発を進め、昭和48年に発売しました。その他にも、0.3ミリ芯の極細チップを採用し、つや消しのスリムなボディに高級スケルトンレスクリップが斬新なデザインの水性ペン「クレタケジグ」が、昭和53年にグッドデザイン選定商品に選ばれています。

○

『サクラクレパスの100年』（2021年刊）

サクラクレパスは、大正14年「かたい・夏用」「やわらかい・冬用」として2種類の「クレパス」を製造・販売しました。代理店から問屋、小売店、消費者への販売ルートに時間がかかり、一部時季ズレが生じて苦情が出ることもありましたが、昭和3年にはオールシーズンタイプの製法に成功しています。また、昭和24年には戦後の児童の心身を救うために貸し切り写生列車・クレパス列車を運行しています。「クレパス」以外の代表的な商品としては、洗濯しても消えにくく接着性に優れた名前書き専用マーカー「マイネーム」があります。保護者の負担を軽くしたいという思いから開発され、現在でも多くの方に使われています。ボールペンの常識を覆した発明もあります。世界初の水性ゲルインキボールペンは、昭和59年「ボールサイン」として販売されました。これは筆、万年筆、鉛筆、ボールペン、マーカーに次ぐ第六の筆記具として市場に変革をもたらしました。

○

筆記具以外の文具や他の身近な製品の会社など、見覚えのある社名の社史を当館社史コーナーで探してみてください。

（企画情報課　宮島・水野）

●問合せ先　神奈川県立川崎図書館　企画情報課
213-0012 川崎市高津区坂戸 3-2-1 かながわサイエンスパーク 西棟 2F
電話:044-299-7825 FAX:044-322-8878
https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html